



HAPS

東山 アーティスト・プレイズメント・サービス (HAPS)
〒605-0841 京都市東山区大和大路通
五条上る山崎町339番地
339 Yamazaki-cho, Higashiyama-ku,
Kyoto 605-0841, JAPAN
TEL 075 525 7525 FAX 075 525 7522
E-MAIL info@haps-kyoto.com
http://haps-kyoto.com



HAPS | Annual Report 2017

HAPS | Annual Report 2017

東山 アーティスト・プレイズメント・サービス事業報告書 2017年度

東山アーティスト・プレイズメント・サービス事業報告書 2017年度



主催事業

ALLNIGHT HAPS

2名の企画者による、
オフィスでの夜通しの展覧会。

若手アーティストの発表を支援するとともに、若手キュレーター養成を目的として、オフィスの玄関を小さな展示空間として、夜6時から朝9時半までの夜間に活用しています。毎年2名のキュレーターに依頼し、年に2つの企画で開催する展覧会です。2017年度は前期にキュレーターの武本彩子さん、後期にはアーティストの高橋耕平さんによる企画展を開催しました。



#1 井上亜美「まなごしをさす」
2017年8月1日(火)～8月31日(木)



#4 礼本彩子「last night meal」
2017年11月10日(金)～12月4日(月)
関連プログラム：アーティストトーク 迎英里子・礼本彩子
12月2日(土) 19:00～20:30

2017前期

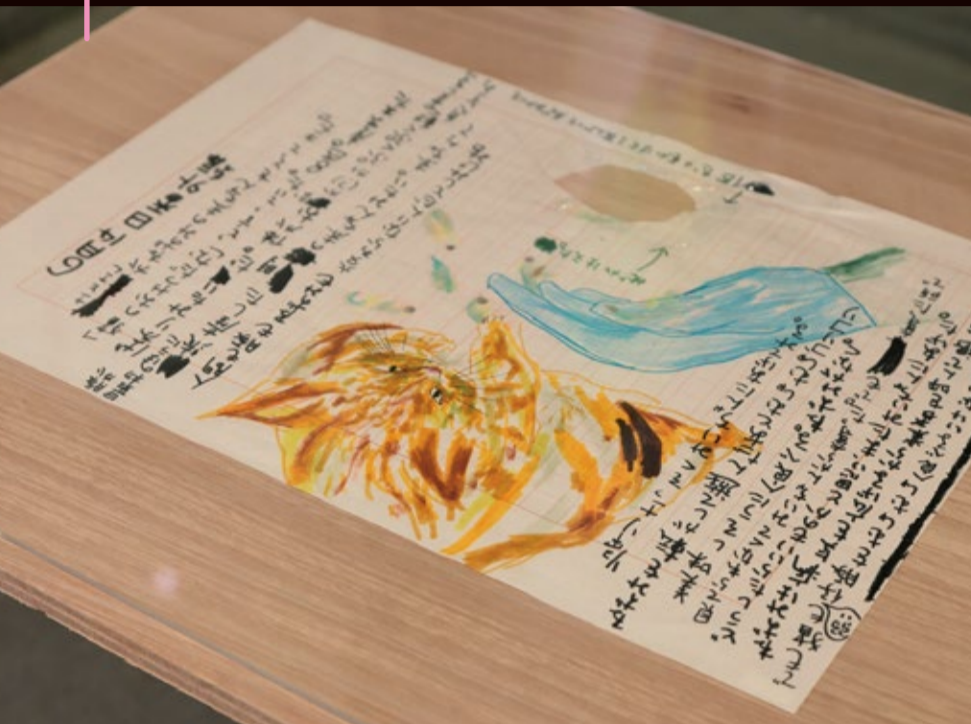
「日々のたくわえ」

企画：武本彩子

住宅地の中に立地し、夕食前の家路をたどる人々が通りすぎるHAPSで、約4ヶ月にわたり、それぞれ「狩猟」「畜産」「屠畜・解体」「加工・消費」をテーマに据えた4名の美術作家の作品を連続で展示します。

仕事をきっかけに、あるいは並々ならぬ興味をもって、各々の題材に向き合い制作する彼女らの作品からは、「食べること／つくること／生活すること」をめぐる、「問い」が浮かび上がってくるようです。しかし、そこには何か明白な「答え」が期待されているわけではありません。彼女たちの表現は、日々生まれては消えていく、自身の経験、感情、思考、プロセスといった「生(なま)もの」のような何かを、手ざわりを得られる方法で一旦保留し、他者や未来の自分と共有可能にする、「たくわえ」のようなものと呼べるかもしれません。それはきっと、彼女たちだけではなく、日常生活をおくり、つくり、食べ、消費をする、私たちにとっても同時に、何らかの「たくわえ」となるはずだと信じています。

#2 廣田真夕「みいちゃんのお墓」
2017年9月2日(土)～9月29日(金・祝)
関連プログラム：アーティスト・トーク 井上亜美・廣田真夕
9月2日(土) 19:00～20:30



VOICE

ALLNIGHT HAPS 2017 前期
「日々のたくわえ」企画者

武本彩子さん

ひっそりとした住宅地、夜から朝までという変わった形態の展示で、内心、どれだけの方が見てくれるのかと不安がありました。いざ始めてみると、ご近所にお住まいの方、海外からのツーリスト、通学中の大学生、猟師、研究者、主婦、飲食店経営者・・・などなど、思いがけずたくさんの方との出会いがあったにぎやかな4か月となりました。夜の道すがら、突如はっきりと明るい空間で不意に遭遇するというのは、美術作品との出会いとしてはなかなか恵まれたシチュエーションかもしれません。企画を骨太な作品で引っ張ってくれた4名の作家と、毎回の搬入に夜遅くまで快くお付き合いくださったHAPSの皆様へ深く感謝いたします。



#3 迎英里子「アプローチ0.1」
2017年10月4日(水)～11月3日(金・祝)
関連プログラム：迎英里子によるパフォーマンス
10月25日(水)、11月3日(金・祝) 19:30-

#2 三重野龍「へんなつくり」
2018年1月9日(火)～1月31日(水)

2017後期

「接触の運用」

企画：高橋耕平

石川卓磨、三重野龍、笹岡由梨子、柳瀬安里、小林耕平。私が彼、彼女らの作品を経験した日やシチュエーションはバラバラだが、作品を後にした私の身体は静かに変化していった。やや遅れて不意に自覚化される身体への影響-重力への意識、形に内包される筋肉の動きへの想像、関節の機能性、視線を向けられることへの恐怖、主体性を宿した身体への懐疑。自らの身体を運用し作品化するという点に於いて共通する5人。個別の関心事、作法はバラバラであるものの、コントロールが及ばない事象に自らの身体を寄せ、摩擦を起こし、巻き込まれ、その感触の具合を造形・質感・所作・構造として作品に練り込んでいかんとする。時には身体の一部を蝕まれ欠損させられるが、身体的な接触がこの世界を理解する上で必要不可欠と言わんばかりに彼らの作品は生成されていく。調和のとれた場面に態々分け入り接触の結果を作品として表すその行為、その態度とは何なのか。私はこの5人の作家の作品を通じ考えたいと思う。時に私も分け入りながら。



#1 石川卓磨「ペルイマンのためのレッスン」
2017年12月6日(水)～12月26日(火)



#5 小林耕平+高橋耕平「接触の運用の往復」
2018年3月30日(金)～4月23日(月)

ALLNIGHT HAPS 2017 後期
「接触の運用」企画者

高橋耕平さん

VOICE

身体を意識する日々を送るようになってしまったのは歳を重ねたせいなのか、過敏症になったせいなのか、「接触の運用」という身体を軸とするテーマを設定。それを元に5回のリレー展を企画した。のっけは石川卓磨。夜の客室を舞台に女性の表情を膨大な数の写真で分解し瞬きのごとく映像とし、三重野龍は格技の組手から着想したエッジなレリーフと趣深いステンシルによる書初めを提示。笹岡由梨子は亡き祖父の生前の時間を継ぎ接ぎにし、アニメーションによって帯を独創的な形とした。柳瀬安里はマリーナ・アブラモビッチ&ウーライの《Breathing In/Breathing Out》をソースとし、かつて嫌悪していた男性と対面し息の交換を行っている。そして小林耕平と高橋耕平は約350kmの距離を超えて今なお接触中である。



#4 柳瀬安里「息の交換」
2018年3月6日(火)～3月26日(月)



#3 笹岡由梨子「あなたがよく眠れますように」
2018年2月6日(火)～2月28日(水)

HAPS | Annual Report 2017



2017年度のHAPSでは大きく二つの新しい取り組みがスタートしました。

一つは東九条エリアにおける文化発信活動、もう一つは社会包摂とアートをめぐる取り組みです。

どちらも、社会的な課題に対してアートがどのように向き合えるのかが問われるものであり、HAPSにとっても大きな挑戦だったと言えます。

今後、文化庁の京都移転や2020年オリンピックの開催など、京都市を拠点に芸術振興を推進するHAPSにとって大きな出来事が次々とやってきます。そんな中でも、「誰が」「どのように」芸術を必要とし、また芸術に「何が」できるのか、という根本的な問いかけを忘れないようにしたいと思います。

2017年がHAPSにとって重要な年だったと言える日が来るよう、これからも邁進して参りたいと思います。

今後とも皆様のご支援、ご協力のほど何卒よろしく願いいたします。

遠藤水城

2017年度実行委員会

実行委員長

遠藤水城 キュレーター

副実行委員長

小崎哲哉 有限会社小崎哲哉事務所代表
Realtokyo & Realkyoto 発行人兼編集長

実行委員

井上えり子 京都女子大学家政学部生活造形学科准教授
鍵村勝人 京都市東山区役所地域力推進室まちづくり推進課長
加須屋明子 京都市立芸術大学美術学部教授
勝治真美 京都芸術センタープログラムディレクター
後藤創平 京都新聞編集局報道部記者
後藤結美子 京都市美術館学芸課学芸員
菅谷幸弘 六原自治連合会事務局長
樋口真幸 インディペンデント・アート・アドミニストレーター
福永敏三 新道自治連合会 会長
松本泰章 嵯峨美術大学芸術学部造形学科教授
ヤノベケンジ 京都造形芸術大学美術工芸学科教授
山田創平 京都精華大学人文学部准教授
吉岡久美子 京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化芸術企画課計画推進担当課長

監事

秋山正俊 京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化芸術企画課長
山中かおり 京都市東山区役所地域力推進室総務・防災課長

アドバイザー

建畠 哲 京都芸術センター館長／多摩美術大学学長
椿 昇 京都造形芸術大学美術工芸学科長
島本 洸 京都精華大学芸術学部教授
名和晃平 アーティスト
高嶺 格 アーティスト
小山登美夫 小山登美夫ギャラリー株式会社 代表取締役
松尾 恵 MATSUOMEGUMI + VOICE GALLERY pfs / w 代表
吉岡 洋 京都大学こころの未来研究センター特定教授
潮江宏三 京都市美術館館長
富永茂樹 京都大学名誉教授
村上圭子 京都市副市長

順不同

(2018年3月現在 敬称略)

事務局

芦立さやか 岡 永遠 藏原藍子 沢田 朔 埜 美智子



ミッション

京都在住の芸術家たちの
居住・制作・発表を包括的に支援する
(芸術家支援)

芸術家たちの創造性を
京都市の活力へと繋ぐ
(地域創造)

国内外の芸術機関と多様な
協力体制を構築する
(ネットワーク形成)

新たな芸術のあり方と、
新たな社会のあり方を共に探求する
(イノベーション活動)



アーティストと
アーティストを支える人のための、
よろず相談所です。

ハ ッ プ ス
HAPS とは？

設立の経緯

京都市は、「京都文化芸術都市創生条例」に基づき、具体的な指針として策定する「京都文化芸術都市創生計画」（2007年3月）において、「若手芸術家等の居住・制作・発表の場づくり」事業を計画しました。2009年4月から調査を開始し、事業のプランニングに着手。2011年9月、上記事業を主として実施する組織として、各分野の専門家で構成する「東山アーティスト・プレースメント・サービス実行委員会」が設立されました。HAPSは、その略称です（読み：ハップス）。

京都のアーティストの場づくり支援

この困難な時代に生きる芸術家たちを支えること。それは、「美術」という一つのジャンルを守るのではなく、私たちの社会全体の豊かさを維持し、さらに新しい可能性を開いていくことに繋がります。多くの芸術家がそこに住まい、生活している街。あるいは逆に、そこで暮らしている人間が芸術家になりうる、芸術家でありうる街。切実な表現、独創的な作品、かけがえない営為が多くの人に見られ、共有されている街。HAPSは、個人の生き方と社会のあり方を組み替え、文化芸術が最大限のポテンシャルを発揮できる環境を京都市に作り出すことを、その目標としています。



相談 いろいろ

2017年度にHAPSによせられた相談の一部です。

展示に使うための**モニター**を借用したい

若手アーティストと美術愛好家をむすぶ公募展の情報を紹介してほしい

今後京都での制作・発表を考えている

トークイベントでHAPSスタッフに**登壇**してほしい

東京でクリエイター活動をしているが、京都に拠点を移し、創作活動をしつつ**地域**に貢献できるような場所を探している

イベントの**動画撮影**ができる方を探している

別の場所で滞在制作したあと、京都で展示を行いたい

写真編集機器、簡易スタジオとしての設備を置けるスペース、立体的制作や製本作業をするための**板の間**または**土間のある物件**を探している

地域のモノ・コトにまつわるデザイン公募の情報を掲載してほしい

日本画や水墨画などにも挑戦したく、200号などの大型の作品制作に対応できるスペースが欲しい。**山**がすぐそばにあり心が落ち着く環境が理想的

アート・マネジメントに関する冊子の**編集補助**ができる人を探している

共同利用・共同研究拠点の公募情報を掲載してほしい

来年**大型の展示**が決まっており、制作する場所を確保したいため、半年だけスペースを借りたい

アートの助成金に関する**相談会**にHAPSも参加してほしい

マンガ作品制作のために、現代美術のアーティストに取材したい

購入した中古住宅をアーティストに**居住空間兼アトリエ**として使ってもらいたい

スタジオ兼住居で、古くてもいいので**犬の飼育可能な物件**を探している

企画している芸術祭の広報に協力してほしい

駅ビルのイベントで、アートの**ワークショップ**を開催してほしい

展覧会の構想があるが、実現に向けてアドバイスをほしい

ロサンゼルスのアートプロジェクトに京都のアーティストを起用したい

畑もできる**静かな環境**で住居兼アトリエとして使える物件を探している

自身の**リサーチ**をもとにしたイベントを開催したい

チャリティオークションに出品してくれるアーティストを探している

石彫・木彫を行なっているが、作業の性質上**大きな音**が出ってしまうため、制作場所探しに苦戦している

生活用品は揃っている**空き家**にて、9か月間の期間限定で、現状のまま住んでくれる人を探している

物件情報を教えてほしい
廃墟を使った企画展をしたいので、

所有している**空き家**を演劇関係者向けに活用したいので、改装や助成金について相談したい

共同スタジオの欠員募集について情報を掲載してほしい

個展の情報を掲載してほしい

自分で企画した展覧会の情報を掲載してほしい

京都で**写真のマウント**をしてくれるラボを探している

ペルーの**アーティスト・イン・レジデンス**情報を掲載してほしい

助成金の申請と推薦人について相談に乗ってほしい

染織作品制作のため、**大きな水場**があって都市ガスが配管されている物件を探している

企画している展覧会のため、**京都のアーティスト**を紹介してほしい

シェアスタジオを探している

壁画プロジェクトの運営について相談したい

グラフィックデザイナーと写真家の夫婦で、札幌から京都へ**移住**を考えており、物件を探している

住居兼アトリエを希望。一緒にシェアしてくれる人も探している

韓国のアートユニットとの打合せを行うため、アートに強い**韓国語通訳**の方を探している

寺の宿坊だった場所が空いており、地域に開かれた使い方をしてくれるアーティストを探している

キャンバスを掛けられる壁面を設置でき、できれば**購入可能な物件**を探している

インダストリアルデザイナーが**ショールーム兼事務所**として使用できる移転先物件を京都市内で探している

イベントのチラシをHAPSで配布してほしい

海外から来京する**キュレーター**をHAPSへ案内したい。可能であればトークも開催したい

京都で**サウンドアート**のイベントを構想しており、会場のお寺、宿泊場所、広報などについて相談したい

アメリカの**アーティスト・イン・レジデンス**について知りたい

新たにオープンするアートスペースのオープニング記念展の**広報協力**をしてほしい

展覧会の企画提案をHAPSにしたい

空き家対策の先行事例としてHAPSにインタビューしたい

京都の集合住宅に関するドキュメンタリー映画の公開にあたって、**国内のスポンサー**を探している

美術家の**インタビュー収録**ができる場所を探している

ステートメントの**英訳**をお願いできる人を探している

アーティスト・サポート・プログラムの情報を掲載してほしい

イベント等を行う場、仕事場+誰でも気軽に集まれる場所を作りたい。貸家の相談と出店者を探している

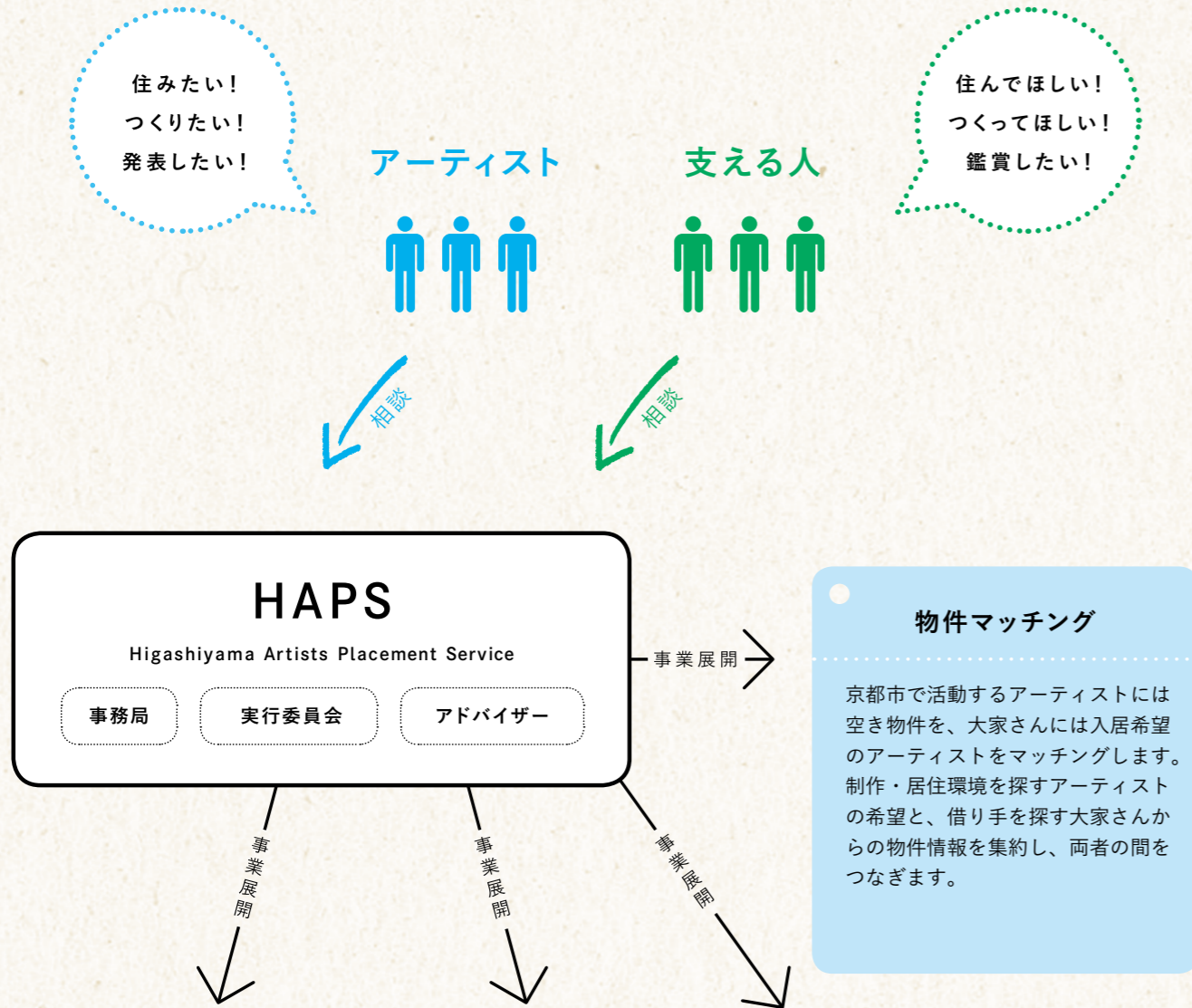
ラッカーとフレームの引き取り手を探している

6月初めまで京都に滞在するので、**シェアスタジオ**を探している

かつて出張に来る会社社員のための**宿泊所**を運営していたが、現在は使っていない。有効活用してくれる人を探している

HAPSの支援活動とは？

HAPSの活動は、相談があって初めて成り立ちます。
相談をきっかけに、さまざまな支援活動を展開しています。



キュレーター招聘

京都を拠点に制作活動を行う若手アーティストを紹介するために、国内外より第一線で活躍するキュレーターを招聘し、スタジオビジットやトークイベントなどのプログラムを開催します。この出会いを機に作家が企画展に呼ばれたり、国際的なアートシーンについて知るきっかけにもなります。

HAPSオフィス・スタジオ

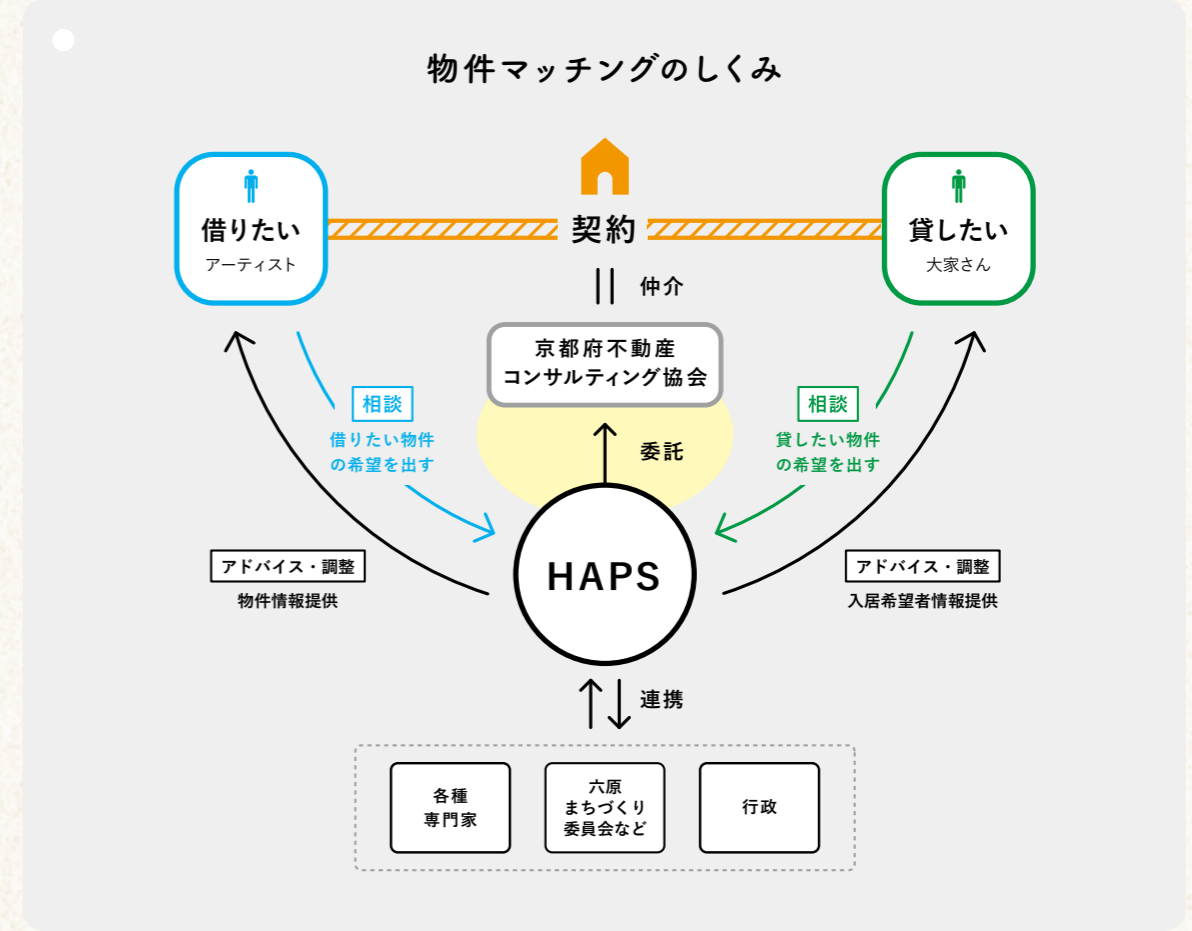
HAPSオフィスには、小さなギャラリー、集会所、中庭などがあり、事務局であると同時に、アーティストと彼らを支える人の交流を生む場所として、多数のプログラムを実施します。また、2011年に閉校した元新道小学校の6教室をアーティストのスタジオとして活用しています。

地域との取り組み

京都市内の行政や地域団体等の要請で、地域の行事や活性化のためにアーティストによるワークショップなどをコーディネートします。作家の仕事斡旋や発表の場づくりにもつながります。例えば、右京区の京北地区での地域を走るコミュニティバスのラッピングや、まち歩きツアーなど、活動の幅はさまざまです。

物件マッチング

京都市全域を対象に、大家さんから活用可能な物件の情報を受け付け、アトリエや住まいを探しているアーティストに物件を紹介しています。アーティストと大家さんの双方の要望に合致するようにマッチングを行っています。社会的に空き家問題への関心が高まっている中、HAPSでは、アーティストにしかできない方法での問題解決を提案しています。また、HAPSが拠点を置く東山区六原地区では、地元有志と各専門家が連携し、空き家や防災等の問題に取り組む「六原まちづくり委員会」に参加しています。



物件マッチング事例の今

物件名：鴨東棲家(左京区)
用途：シェアハウス
紹介時期：2014年

鴨東棲家入居者代表 / RAD
本間智希さん
3年前に左京区の1軒家をHAPSに紹介してもらいシェアハウスをしています。京都は芸術大学卒で作家を目指す人と同じように、様々な学術分野で研究職を志す人の多い土地柄です。大学に近い我が家もこれまで様々な分野の駆け出しの研究者が入居し、アーティストをはじめクリエイターや研究者など文化や芸術に関わる人の交流拠点になっています。

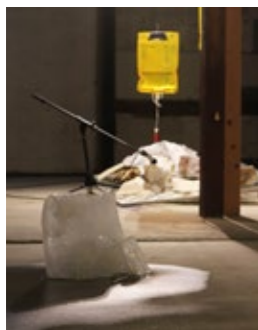


VOICE



相談 & 展開事例

2017年度、HAPSに寄せられた相談から展開した事例を紹介します。



展覧会「真空ろまん」

会期: 2018年3月7日~3月18日
会場: KYOTO ART HOSTEL kumagusuku (中京区)
参加作家: 阿児つばさ、大和田俊

撮影: 野田ジャスミン

事例 1

アーティストが企画する展覧会をサポート

宿泊型アートスペース「KYOTO ART HOSTEL kumagusuku」での展覧会に関して、美術家の阿児つばささんより相談を受けました。企画の実現に向け、設営スタッフを探していることや、企画運営に伴う予算面の検討などがあり、部分的にHAPSがサポートを行いました。

美術家「真空ろまん」展実行委員会

阿児つばささん

「真空ろまん」展では、企画者である京都精華大学の学生さんと共に展覧会の運営を行いました。出展作品の内容から冬の開催を目指していたため、展示を企画してから準備日数が少なく、実現に向けて様々なハードルがありましたが、HAPSさんの力添えもあり、無事に展示を開催することができました。助成金申請についての相談から始まり、最終的には展示の告知まで、様々な面でのサポートをいただきました。本当にありがとうございました。

VOICE



事例 2

上映会企画の相談から、HAPSオフィスで開催へ

ベルリン・京都を拠点に活動する4人のアーティストによる映像作品の上映とディスカッションの会場を京都で探しているという相談から、HAPSでのOUR SCHOOL（右頁参照）のイベントとして開催。土地の使われ方によって左右される「空間」のさまざまな側面を、個人的、建築的、文化的な視点から紐解き、考える場となりました。

「SPACE SHIFTING - 空間のうつりかわり」

開催日: 2017年9月22日(金)
会場: HAPS オフィス 1階
参加作家: ステファニー・ガウス & フォルカ・サッテル、エルケ & ミカエル、田中英行

プログラム

- ・「Beyond Metabolism」by Stefanie Gaus and Volker Sattel (映像作家/ベルリン)
film, HD, color/sound, 41分, ドイツ 2014
- ・「Space Shifting」by Elke Marhöfer and Mikhail Lylov (映像作家/ベルリン)
16mm film transferred to HD, color/sound, 18分, 日本, 2015.
- ・レクチャー パフォーマンス「個人史から稲作を考える」by 田中英行 (アーティスト/京都)
- ・ドリンク&ディスカッション
司会: 齋藤名穂 (建築家/デザイナー)
キュレーター: ヤナ・エスケ (キュレーター/ドイツ・スイス)



主催事業

2017年度、HAPSが主催した事業を紹介します。

主催事業 1

キュレーター招聘

アーティストと国内外のキュレーターをつなぐ。

近年、展覧会等の企画を行うキュレーターの存在が注目を集めています。しかし、多くのアーティストにとって、キュレーターと直接対話し、知見を交わす機会は限られています。HAPSでは、そのような機会を定期的に提供。国内外のキュレーターが京都のアーティストを知り、京都のアーティストが企画者の求めるものを知る。そこから具体的な展覧会やイベントに発展した事例も生まれています。

2017年度 招聘キュレーター

- ルディ・ツェン (台湾、インディペンデント・キュレーター/アート・コレクター)
- ドリユン・チョン (香港、M+ チーフ・キュレーター)
- 飯田志保子 (日本、インディペンデント・キュレーター/東京藝術大学准教授)

2017年度 招聘キュレーター

飯田志保子さん

地縁がない土地での調査の際には、さまようのが楽しい場合と、水先案内人がいて心強い場合との両方がある。短期間しか滞在できない場合（加えて重度の方向音痴の私にとっては）、後者の方が断然ありがたい。スタジオ訪問のルートが食事処も含めてよく練られていたのには感動しきり。こうしたHAPSの素晴らしいコーディネートのおかげで、お会いする機会を得た作家一人ひとりの実践がどのような暮らしや制作環境のなかから生まれてくるのか、気を急ぐことなくじっくり話を伺うことができた。芸術実践を育む環境を支えるHAPSの存在の重要性を再認識する好機となった。

VOICE

主催事業 2

OUR SCHOOL

HAPSでは、あらゆる人に開かれた学校「OUR SCHOOL」を開校しています。場所は、HAPS オフィスの1階。誰もが生徒にも先生にもなれ、知識や経験、技術を共有していく解放された学校を目指しています。「生きるために表現すること」と「生きることが表現であること」。この2つを自由に往復することが、私たちの生存につながります。

主催事業 3

ALLNIGHT HAPS

※詳細は表紙面

若手アーティストの発表を支援するとともに、若手キュレーター養成を目的として、オフィスの玄関を小さな展示空間として、夜6時から朝9時半までの夜間に活用しています。

- 2017前期「日々のたくわえ」(企画: 武本彩子)
- 2017後期「接触の運用」(企画: 高橋耕平)

アーティスト × 仕事

アーティストだからこそ、
できることがある。

今年度より、芸術家支援活動の一環として、これまでに培ってきたアーティストや専門家とのネットワークを活かし、仕事を依頼したい方とアーティストのための情報提供のサービスをスタートしました。アーティストへ「仕事」を依頼するという形での支援が、新たな創造に結びつくことを期待しています。仕事情報の登録、アーティストの情報登録はHAPSのウェブサイトにて受け付けています。ウェブサイトではこのほか、コンセプトと共にアーティストと支援のあり方を巡る考察の場として、様々な方へのインタビューやエッセイを掲載。随時公開していきます。

ウェブサイト → <http://haps-kyoto.com/work>

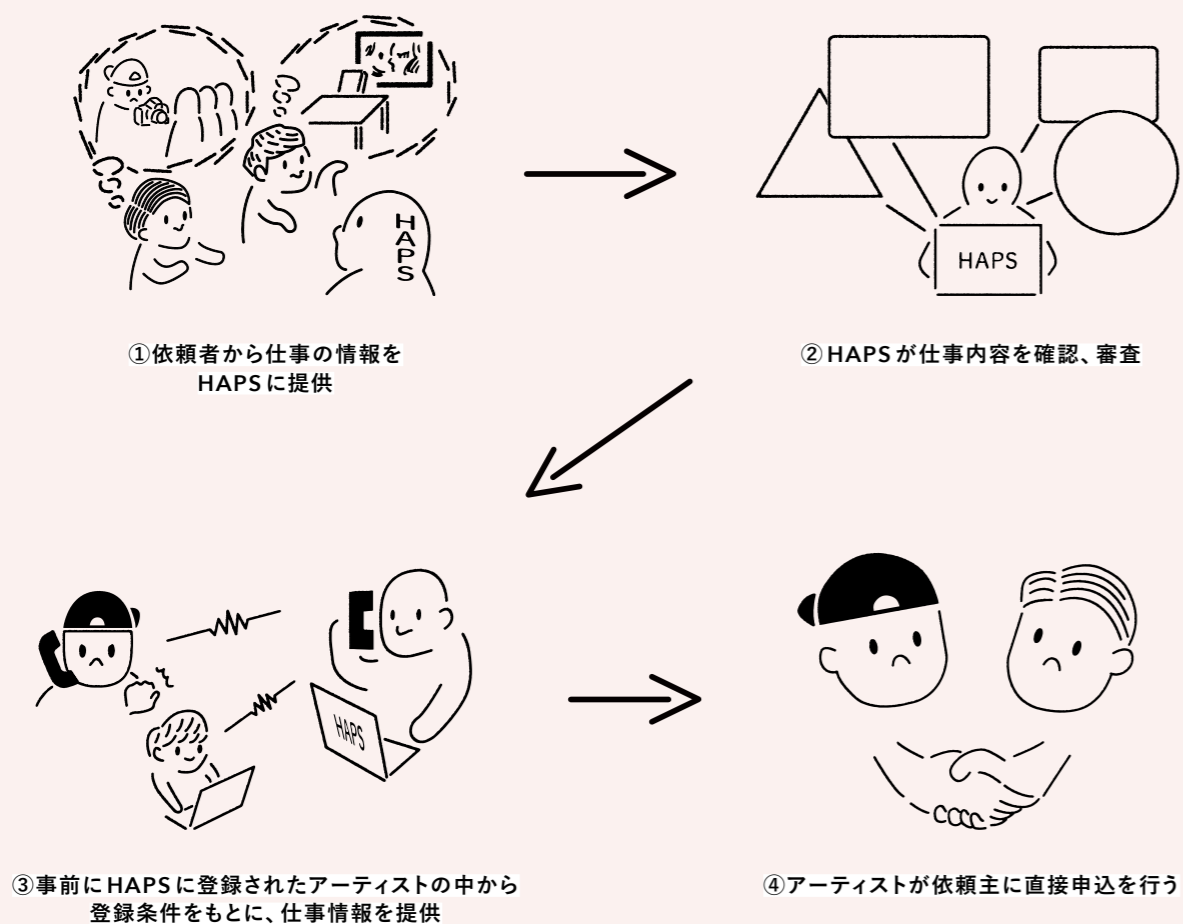
仕事を依頼したい方

ウェブサイトの「仕事を依頼したい方」のバナーから「仕事情報登録フォーム」にすすみ、依頼したい内容、契約形態・報酬などを具体的に登録ください。内容をHAPSで審査したうえで、アーティストに仕事情報を提供します。

依頼を受けたいアーティスト

ウェブサイトの「依頼を受けたいアーティスト」のバナーから「アーティスト情報登録フォーム」にすすみ、自身の活動のジャンル、プロフィール、作品の概要や活動歴を登録ください。HAPSが仕事の情報提供を受け、該当する情報をお知らせします。実際に仕事を受ける際は、依頼者に直接申し込みをしていただきます。

情報提供の流れ



HAPS スタジオ TOPICS

HAPS スタジオを使用している
アーティストたちの活動を紹介します。



今回発表した作品にも使用された、猟師の祖父の昔の写真。

スタジオで制作した作品から、 国際展出展へ

2016年からHAPSスタジオを使用している井上亜美さん(→p14)。京都造形芸術大学ウルトラファクトリー主催のアートコンペティション『ULTRA AWARD 2016』では、スタジオで制作した作品がグランプリを受賞しました。そして、同コンペティションのゲスト審査員であった森美術館チーフキュレーターの片岡真実さんの推薦により、片岡さん自身がアーティストティック・ディレクターを務める第21回シドニー・ビエンナーレに出展が決定。猟師として実際に狩猟を行いながら制作した《じいちゃんわたしの共通言語》、《猟師の生活》という2作品を、映像作品として再構成し発表しました。

井上亜美さん

初の海外出展で、自分の作品が海外の観客からはどう見られるのかということや、日本と海外の狩猟文化の違いなども改めて意識する機会となり、視野が広がったように思います。また、現地スタッフとの交渉など、HAPSの実務的なサポートがとても助かりました。



VOICE

「第21回シドニー・ビエンナーレ」

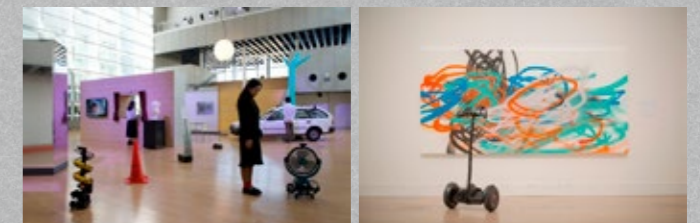
会期:2018年3月16日～6月11日
会場:コックトゥー島、ニュー・サウス・ウェールズ州立美術館、キャリッジワークス、シドニー現代美術館、Artspace、シドニーオペラハウス、A4 Centre for Contemporary Asian Art
テーマ:「スーパーポジション - 均衡とエンゲージメント」
アーティストティック・ディレクター:片岡真実

HAPS STUDIO TOPICS

2

文化庁メディア芸術祭、 アート部門優秀賞受賞!

やんツーさん(→p15)が、山口情報芸術センター[YCAM]にて発表した、鑑賞者がインターネットを通じて展示に参加できる作品《アバターズ》(菅野創さんとの共作)が、本年度の文化庁メディア芸術祭アート部門優秀賞(展示は2018年6月)を受賞しました。また、2018年1月の『20th DOMANI・明日展 文化庁新進芸術家海外研修制度の成果』に、やんツーさん自身の旧作を「鑑賞」してまわるインスタレーション作品《今日の鑑賞者》が展示されました。



菅野 創/やんツー 共作《Avatars》
photo:Kazuomi Furuya Courtesy of Yamaguchi Center for Arts and Media [YCAM]

DOMANI・明日展での展示
photo:Rakutaro Ogiwara

やんツーさん

振り返ってみると、1年目からほぼ変わらないテンションで、国内外問わず本当に多くの展示会に参加してきた3年間でした。その間の制作や作品の保管、そして人とのつながりにおいて、HAPSスタジオは非常に大きな役割を果たし、今後の活動に大きく貢献する経験をもたらしてくれたと思っています。大変お世話になりました。



VOICE

HAPS スタジオ

HAPS では元小学校の教室をアーティストのスタジオとして活用しています。
2017年4月、第6期の使用者として、Homesick Studioが使用を開始しました。

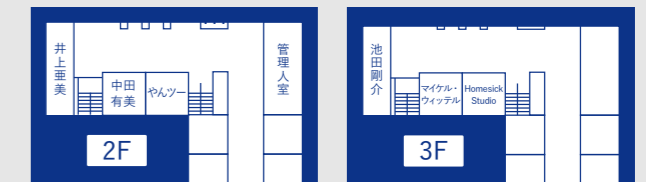


(左より守屋、成田、前谷、堀井)

HAPS スタジオとは？

2012年12月より、京都を拠点に活動をしていく美術系アーティストのために、元小学校の教室を利用した制作スタジオを提供、現在6教室を運営しています。2011年に閉校した元新道小学校は、東側に名刹建仁寺、北側に京都系びす神社、西側に京都五花街の一つ宮川町と、京都の風情を醸し出す地域にあります。

スタジオマップ



池田剛介 IKEDA Kosuke

1980年生まれ。美術作家。2003年京都造形芸術大学情報デザイン学部卒業。2005年東京藝術大学大学院先端芸術表現専攻修了。平成17年度文化庁新進芸術家在外研修員としてポストン滞在。平成27年度ポラ美術振興財団在外研修員として台北滞在。自然現象、生態系、エネルギーなどへの関心をめぐりながら制作活動を行う。2016年4月使用開始。

Homesick Studio

写真を扱う4人のアーティスト、成田舞、堀井ヒロツグ、前谷開、守屋友樹による共同スタジオ。写真現像用の暗室やスタジオを共有し、それぞれ写真、映像、テキストなどの作品制作を行う。

Homesick Studio
前谷開さん

VOICE
暗室での写真制作のための場所として、4人のメンバーが共同で一つの教室を使用しています。キュレーターのアートビジットなど、HAPSスタジオを使用していることによって得られた出会いがいくつもあった一年でした。暗室の制作環境も整い、より一層作品制作に励みたいと思います。



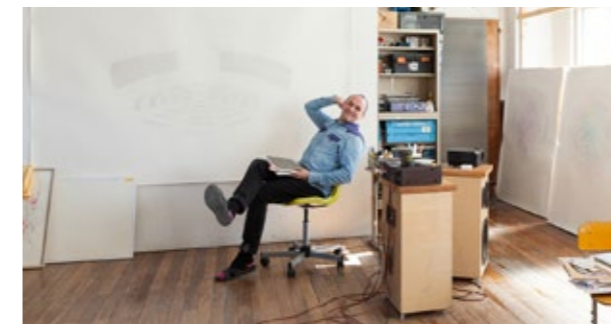
井上亜美 INOUE Ami

1991年宮城県生まれ。東京藝術大学大学院映像研究科修士課程修了。在学中に狩猟をはじめ。猟師として生活する傍ら、狩猟の現場でつぎつぎに起こる出来事をエスノグラフィックな視点で見つめ、自身が出演・演出する手法で映像作品を制作している。作品に、都会で暮らす猟師の奇妙な生活を描いた《猟師の生活》、震災後に猟をやめた祖父を追った《じいちゃんとわたしの共通言語》などがある。2016年4月使用開始。



中田有美 NAKATA Yumi

1984年奈良県生まれ。2009年京都市立芸術大学美術研究科造形構想専攻修了、2016年京都市立芸術大学美術研究科博士課程(油画)修了。「描く」ことを通して自己、および他者の存在を問うことを目的に作品を制作している。自らが持つ顔面や記憶、言語に規定される「ものの意味」に注目し、それらが生成される様子を平面上に表象言語を用いた独自のシミュレーションをすることで、我々の共有する現実を示そうとしている。2016年4月使用開始。



マイケル・ウィッテル Michael WHITTLE

1976年イギリス・ノーサンバーランド生まれ。ブラッドフォード大学で生物学を学んだのち、ロイヤル・カレッジ・オブ・アート修士在籍中、2010年文部科学省国費外国人留学生として訪日。2年間の研究生を経て、2015年京都市立芸術大学大学院博士課程修了。科学と美術の詩的な関係について書いた博士論文『Romantic Objectivism: Diagrammatic thought in Contemporary Art』で梅原猛賞を受賞。図像学的なシンボルや科学記号を使った複雑で繊細なドローイングやインスタレーションを制作。2016年4月使用開始。



やんツー yang02

1984年、神奈川県生まれ。2009年多摩美術大学大学院修了。久保田晃弘氏、三上晴子氏に師事し、メディアアートを学ぶ。デジタルメディアを基盤に、グラフィティやストリートアートなど、公共圏での表現にインスパイアされた作品を多く制作。表現形態にとらわれず、作品を通して既存の価値感に対して問題提起をおこなう。第15回文化庁メディア芸術祭アート部門にて新人賞受賞。国内外のフェスティバルや展覧会にて作品を発表している。2015年4月使用開始。

新たな取り組み

2017年度、2つのプロジェクトに取り組みながら、
社会の中でのアートの役割を再考しました。

地域とアートの出会いを可視化する

京都市からの受託事業として、京都市が2017年3月に策定した「京都駅東南部エリア活性化方針」に基づき、「京都駅東南部エリアアート・トライアル2017-2018」と題して、ワークショップとイベントを企画・運営しました。全4回のワークショップでは、地域住民や若手芸術家など京都駅東南部エリア（南区山王学区の竹田街道より東側の7箇町）に関心のある方々とともに、本エリアにおける文化芸術によるまちづくりを考えました。また、その成果としてイベント「おととおどりのまつりごと」を開催。地域のアーティスト朴実（作曲）と、新たにこの地にやってきたアーティストきたまり（ダンス）とが、地域内外の表現者たちを巻きこみ、ともに作りあげた作品をエリア内で上演しました。

京都駅東南部エリア

アート・トライアル2017-2018

第1回ワークショップ「芸術と生活をめぐるラウンドテーブルvol.1」

開催日：2017年11月11日（土）
集合場所：元山王小学校正門
まちあるき～京都市地域・多文化交流ネットワークセンター～
劇場「Theatre E9 Kyoto」整備予定地～若手芸術家の制作現場～意見交換会

第2回ワークショップ「芸術と生活をめぐるラウンドテーブルvol.2」

開催日：2017年12月7日（木）
会場：京都市 地域・多文化交流ネットワークセンター内 地域集会所
登壇者：
大谷 煥（NPO法人 DANCE BOX 理事長、神戸アートビレッジセンター館長）
田口幹也（城崎国際アートセンター館長兼広報・マーケティングディレクター）
李 奈美、具 明德（東九条マダン・サムルのたまご）
藤山陽太（ロームシアター京都支配人兼エグゼクティブディレクター）

第3回ワークショップ「地域資源を発掘しよう～つぶやき拾い～」

開催日：2018年2月7日（水）/2月10日（土）
会場：京都市 地域・多文化交流ネットワークセンター内 地域集会所

第4回ワークショップ「地域資源のつなぎ合わせ～見える化～」

開催日：2018年2月24日（土）
会場：京都市 地域・多文化交流ネットワークセンター内 地域集会所

イベント「おととおどりのまつりごと」

開催日：2018年3月25日（日）
会場：元山王小学校、市有地及び南岩本公園、劇場整備予定地
総合演出：きたまり
音楽監修：朴実
企画コーディネーター：あごうさとし

おととおどり-空き地

出演：地域の子どもたち、今貂子+ニコ、袋坂ヤスオ、今村達紀、倉田翠、佐藤家、田村興一郎、きたまり 他
演奏：ハンマダン

おととおどり-劇場予定地

出演：きたまり
演奏：北村柚起恵（ソプラノ）、朴優栄（フルート）、朴実（ピアノ）、朴哲（チェンゴ他）

トーク「アート・トライアルと、これから」

登壇者：寺川政司（近畿大学准教授）、あごうさとし（一般社団法人アーツシード京都代表理事）、平井忠之（京都市総合企画局プロジェクト推進事業推進担当部長）、逸藤水城



第1回ワークショップでのまちあるき



第3回ワークショップの様子



おととおどり-空き地



おととおどり-劇場予定地



劇作家・演出家・(一社)アーツシード京都代表理事

あごうさとしさん

「芸術を活用したまちづくり」とは、一体、どういうものなのか。言葉だけで理解するのは、難しいものです。半年にわたって行いました、まちあるき、シンポジウム、まちづくりワークショップ、そして音楽とダンスの公演。それらを通じて、地域の皆様、アーティスト、HAPS、行政の方々と共に問い続けて参りました。今後も長く継続することが大事と考えますが、それでも、初年度を終えた今と、1年前と比べますと、劇的な違いが生まれているものと思います。未来につながる予感があります。かかわってくださった皆様に深く感謝を申し上げます。

VOICE



ワークショップ「私たちの『多様性』について」



『はじめまして こんにちは 今私は誰ですか?』

文化芸術で人が輝く社会づくりモデル事業

【その1 子どもプロジェクト】

児童養護施設「和歌学園」に入所している子どもを対象に、京都市芸術文化協会の協力のもと、音楽のワークショップを複数回実施し、最終回は学園内の卒業イベントに合わせて練習の成果を発表しました。

ワークショップ① 2017年12月3日（日）
ワークショップ② 2017年12月22日（金）
ワークショップ③ 2018年1月31日（水）
ワークショップ④ 2018年2月21日（水）
ワークショップ⑤ 2018年3月16日（金）
会場：児童養護施設 和歌学園

講師：小久見佳代（フルート）、福島 あき（声楽）、村山 知美（ピアノ）

【その2 LGBTプロジェクト】

「Café LGBT+」と共同で、セクシュアル・マイノリティの権利擁護と市民社会、アートとの関係を考えるレクチャーとワークショップを実施しました。

①ワークショップ
「マレーシアにおけるセクシュアル・マイノリティの現状とアート・アクティビズム」
開催日：2017年10月27日（金）
会場：京都市中京区青少年センター和室
講師：パン・キーテイク（アーティスト）、樋口真幸（インディペンデント・アート・アドミニストレーター）

②レクチャー「映画の中のセクシュアル・マイノリティ（レズビアンを中心に）」

開催日：2017年11月25日（土）
会場：同志社大学烏丸キャンパス至高館
講師：菅野優香（同志社大学准教授）
聞き手：あかたちかこ（思春期アドバイザー）

③調査報告会「アメリカ西海岸におけるセクシュアル・マイノリティのコミュニティ調査報告」

開催日：2017年12月9日（土）
会場：京都市中京青少年活動センター中会議室
講師：藤田淳志（愛知学院大学教養部准教授）、山田創平（社会学者/京都精華大学全学研究機構社会連携センター長・人文学部准教授）

④トークイベント「エイズ危機の時代のアートとそのアーカイブ化」

開催日：2018年1月20日（土）
会場：京都市立芸術大学芸術資源研究センター
講師：プブ・ド・ラ・マドレーヌ（アーティスト）、石谷治寛（京都市立芸術大学芸術資源研究センター研究員）

⑤ワークショップ「私たちの『多様性』について」

開催日：2018年2月16日（金）
会場：京都芸術センター大広間
講師：パン・キーテイク（アーティスト）
ファシリテーター：あかたちかこ（思春期アドバイザー）

【その3 多文化共生プロジェクト】

東九条地域にある高齢者福祉施設「故郷の家・京都」の利用者をはじめとする、地域の高齢者等と、演出・振付家・ダンサーの倉田翠氏が対話を重ね、舞台作品を制作し、現地で発表公演を行いました。

公演「はじめまして こんにちは 今私は誰ですか?」

開催日：2018年1月27日（土）2回公演
会場：故郷の家・京都（雲史ホール）
演出：倉田翠
出演（映像出演含む）：岩本義夫、小林久江、山田茂、張琴先、丁春燁、村木美都子、倉谷誠、倉田翠ほか
企画コーディネーター：あごうさとし
制作：一般社団法人アーツシード京都
協力：社会福祉法人 こころの家族、京都コリアン生活センター「エルファ」、東九条まちづくりサポートセンター「まめもやし」

「文化芸術で人が輝く社会づくりモデル事業」成果報告会

開催日：2018年2月16日（金）
会場：京都芸術センター大広間（京都市中京区室町姉薬師下る）
登壇者：あごうさとし、須川渡、竹内香織、中川真、山田創平、逸藤水城
共催：京都芸術センター

文化芸術を通して、 様々な人々の社会参加の機会を創出する

同じく京都市からの委託を受け、「文化芸術で人が輝く社会づくりモデル事業」を実施しました。本事業は、文化芸術の力を活用し、社会的課題を抱えた方も含めた様々な人々の社会参加の機会を増やし、その困難の緩和や解決につなげることを目的とした取り組みです。ここでは、3つの社会的課題（子ども/LGBT/多文化共生）をとりあげ、モデル事業を展開、2月の成果報告会にて、その報告を行いました。また、今後の本格的な事業展開につなげていくことを目的に、子育て支援施設や高齢者福祉施設など、京都市内や他都市の先事例の調査を実施しました。



本事業ディレクター
大阪市立大学都市研究プラザ特任教授

中川真さん

京都市より受託した本事業では、文化芸術を通して社会包摂を実現させることを目標に、モデル事業を実施した。具体的には、(1)〈子ども〉〈LGBT〉〈多文化共生〉に焦点をあてた現場実践、(2)文化芸術を通じた社会包摂に関する、市内外での包括的な聞き取り調査、(3)関連する施策の企画・検討、以上の3つである。この事業は文化政策と社会（福祉）政策を繋ぐ可能性を示唆するとともに、若い芸術家の活動を広げるためのマッチング事業に取り組むHAPSとは親和性の高いプロジェクトとなった。

VOICE

協力事業ほか

2017年度、HAPSが関わった
企画の一部を紹介します。



事業 2

見立てと想像力 千利休とマルセル・デュシャンへの オマージュ展

閉校した小学校で、
日本とフランスの現代アート展の開催

「ニューイ・ブランシュ2017」の一環として行われた展覧会に制作協力しました。「茶の湯の父」と「現代アートの父」の思いに倣い、150年近い歴史を閉じた小学校を舞台に、想像力を刺激するインスタレーションを展示しました。HAPSは展覧会準備段階から会期中運営まで制作として関わりました。

【見立てと想像力 千利休とマルセル・デュシャンへのオマージュ展】

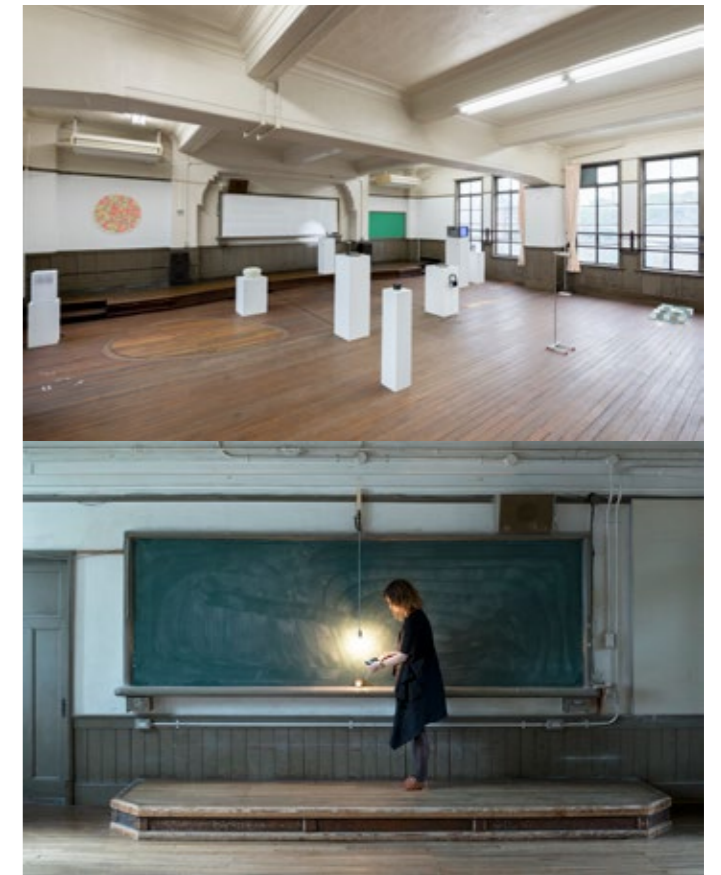
会期:2017年10月6日～10月22日

会場:元淳風小学校

参加作家:藤本由紀夫、セシル・アンドリュ、宮永愛子、八木良太、染谷聡、ジュスティヌ・エマール(サウンドデザイン:原摩利彦)、井村一登、小松千倫

企画:小崎哲哉

制作:(有)小崎哲哉事務所+東山 アーティスト・プレイズメント・サービス(HAPS)



写真上:八木良太《確認するためのオブジェ》、2017
写真下:ジュスティヌ・エマール《Exovisions》、2017
撮影:守屋友樹



事業 1

ユーディット・ゼング、谷中佑輔 The Point in Front Is Not the Point in Front Is Not

元HAPSスタジオ使用アーティストが出演する
展覧会の企画監修

ベルリンに拠点をおく2人のアーティスト、ユーディット・ゼングと谷中佑輔(元HAPSスタジオアーティスト)による、パフォーマンスと彫刻の関係性を巡る展覧会の企画監修を行いました。展示においては、それぞれの関心から、空間、物質、身体が相互に干渉し合う構造がつけられ、会期中にはその中でパフォーマンスも行われました。

ユーディット・ゼング、谷中佑輔

【The Point in Front Is Not the Point in Front Is Not】

会期:2017年7月13日(木) - 2017年8月13日(日)

会場:京都芸術センター ギャラリー 北・南

出展作家:ユーディット・ゼング、谷中佑輔

主催:京都芸術センター

助成:ゲーテ・インスティテュート・ヴィラ鴨川

テキスタイル協力:Kvadrat

写真上:谷中佑輔《We the People?》, 2017

写真中:ユーディット・ゼング《ACTING THINGS VI - Spatial Canvas》, 2017

写真下:谷中佑輔《We the People?》, 2017

撮影:キム・ソング

事業 3

國府理《水中エンジン》 再制作プロジェクト

HAPS代表である遠藤が組織した『國府理「水中エンジン」再制作プロジェクト』により、展覧会『國府理 水中エンジン redux』やトークなどの関連イベントが行われました。HAPSは広報で協力するとともに、トークイベント「《水中エンジン》再制作の技術について」がOUR SCHOOLにて開催されました。

國府理「水中エンジン」再制作プロジェクト

・展覧会「國府理 水中エンジン redux」

前期:2017年7月4日(火)～7月16日(日)

後期:2017年7月18日(火)～7月30日(日)

会場:アトスペース虹

助成:公益財団法人 関西・大阪21世紀協会 アーツサポート関西、公益財団法人 テルモ生命科学芸術財団

主な関連イベント:

・《水中エンジン 再起動!!!》

2017年4月1日(土)

会場:京都造形芸術大学 ULTRA FACTORY

協力:京都造形芸術大学 ULTRA FACTORY、京都市立芸術大学 芸術資源研究センター、東山 アーティスト・プレイズメント・サービス(HAPS)

・「國府理 水中エンジン redux」関連イベント・浅田彰氏ゲストトーク

2017年7月22日(土)

会場:京都芸術センター ミーティングルーム2

主催:國府理「水中エンジン」再制作プロジェクト実行委員会、東山 アーティスト・プレイズメント・サービス(HAPS)

共催:京都芸術センター



『國府理 水中エンジン redux』(後期) 2017、アトスペース虹の展示風景
撮影:Tomas Svab

2017年度 HAPS 事業実績

📍 相談受付数	📰 広報	🌐 インターネット
アーティストから 支える人から 計	99 件 99 件 198 件	新聞 23 件 雑誌 2 件 web 13 件 その他 3 件 計 41 件
🏠 物件マッチング		
コーディネート実現数 シェアスタジオへの入居実現数	1 件 1 件	119,005 件 2,482 人 3,216 人 13 件

主催事業

タイトル	開催日	会場	ゲスト	共催等
HAPS スタジオ第6期使用開始	2017/4/1-	HAPS スタジオ	-	-
GA TALK 007「参加型アートの系譜：クレア・ビショップ『人工地獄』を中心に」	2017/6/6	京都造形芸術大学 智勇館1階	大森俊克	京都造形芸術大学大学院
キュレーター招聘 ルディ・ツェン氏	2017/7/11	HAPS スタジオなど 市内スタジオ	ルディ・ツェン	-
GA TALK 008「アートと私の旅」	2017/7/11	京都造形芸術大学 智勇館1階	ルディ・ツェン	京都造形芸術大学大学院
『國府理 水中エンジン redux』関連イベント・浅田彰氏ゲストトーク	2017/7/22	京都芸術センター ミーティングルーム2	浅田彰	主催：國府理「水中エンジン」再制作プロジェクト実行委員会、東山 アーティスト・プレイズメント・サービス (HAPS) / 共催：京都芸術センター
ALLNIGHT HAPS 2017前期『日々のたくわえ』	2017/8/1-12/4	HAPS オフィス	企画：武本彩子 出展作家：井上亜美 / 廣田 真夕 / 迎 英里子 / 札本彩子	助成：公益財団法人 朝日新聞文化財団
ALLNIGHT HAPS 2017後期『接触の運用』	2017/12/6-2018/4/23	HAPS オフィス	企画：高橋耕平 出展作家：石川卓磨 / 三重野龍 / 笹岡由梨子 / 柳瀬安里 / 小林耕平 + 高橋耕平	助成：公益財団法人 朝日新聞文化財団
キュレーター招聘 ドリユン・チョン氏	2017/12/18	HAPS スタジオなど 市内スタジオ	-	-
キュレーター招聘 飯田志保子氏	2018/2/3-2/4	HAPS スタジオなど 市内スタジオ	-	-
【Can curatorial attitudes become form? #08】キュレータートーク 飯田志保子「オーストラリアに端を発する二つの転換期—作品をとりまく文脈の移植可能性と不可能性について」	2018/2/3	京都芸術センター ミーティングルーム2	飯田志保子	共催：京都芸術センター

OUR SCHOOL

タイトル	開催日	ゲスト	主催
うっかり母ちゃんの にほんばなし 親子でたのしむお茶と絵本	2017/4/22	福地 地子	福地空果梨堂
うっかり母ちゃんの にほんばなし 親子でたのしむお茶と絵本	2017/5/27	福地 地子	福地空果梨堂
いだらぼうとホリバーン 報告会	2017/5/27	野村誠、やぶくみこ	山本麻紀子
うっかり母ちゃんの にほんばなし 親子でたのしむお茶と絵本	2017/6/17	福地 地子	福地空果梨堂
トーク「《水中エンジン》再制作の技術について」	2017/7/15	話し手：白石晃一、松本章 聞き手：高嶋慈、はがみちこ	國府理「水中エンジン」再制作プロジェクト実行委員会
うっかり母ちゃんの にほんばなし 親子でたのしむお茶と絵本	2017/7/22	福地 地子	福地空果梨堂
ドクメンタ、ミュンスター 彫刻プロジェクト、ヴェネツィア・ピエンナーレ —2017年ヨーロッパ大型芸術祭・報告／分析会	2017/7/28	池田剛介	池田剛介
うっかり母ちゃんの にほんばなし 親子でたのしむお茶と絵本	2017/8/26	福地 地子	福地空果梨堂
SPACE SHIFTING - 空間のうつりかわり	2017/9/22	ステファニー・ガウス&フォルカ・サツテル、エルケ&ミカエル、田中英行 司会：齋藤名穂 (建築家/デザイナー)	'Rice and moon - Zoom in and out'
うっかり母ちゃんの にほんばなし 親子でたのしむお茶と絵本	2017/9/23	福地 地子	福地空果梨堂

協理事業ほか

タイトル	開催日	会場	協力内容	主催
國府理《水中エンジン》再起動 トーク+始動式	2017/4/1	京都造形芸術大学 ULTRA FACTORY	広報協力	國府理「水中エンジン」再制作プロジェクト実行委員会
裏声で歌へ	2017/4/8-6/18	小山市立車屋美術館	広報協力	「裏声で歌へ」実行委員会、小山市教育委員会
「アーギュメント #2」	2017/7/4 (発行)	-	鼎談収録会場協力	-
マイケル・ウィツテル「The Shape of Information」	2017/6/3-6/30	COHJU contemporary art	スタジオ使用(マイケル・ウィツテル)	COHJU contemporary art

タイトル	開催日	会場	協力内容	主催
『國府理 水中エンジン redux』	2017/7/4-7/30	アトスペース虹	広報協力	國府理「水中エンジン」再制作プロジェクト実行委員会
展覧会『國府理 水中エンジン redux』ゲストトーク 榎木野衣	2017/7/4-7/30	良恩寺	広報協力	國府理「水中エンジン」再制作プロジェクト実行委員会
ユードイット・ゼング、谷中佑輔『The Point in Front Is Not the Point in Front Is Not』	2017/7/13-8/13	京都芸術センター	企画監修	主催：京都芸術センター
ULTRA x ANTEROOM exhibition 2017「ULTRA GIRLS COLLECTION」	2017/7/27-8/27	ホテル アンテルーム 京都 GALLERY9.5	スタジオ使用 (井上亜美)	-
展覧会『國府理 水中エンジン redux』クロージングパーティー	2017/7/29	green & garden	広報協力	國府理「水中エンジン」再制作プロジェクト実行委員会
「京都銭湯芸術の祭り MOMOTARO 二〇一七」	2017/8/13-8/20	平安湯(京都市左京区) 玉の湯(京都市中京区) 錦湯 (京都市中京区) 梅湯 (京都市下京区)	企画にあたり相談	京都銭湯芸術祭 実行委員会
ニュー・ブランシュkyoto 2017『見立てと想像力 —千利休とマルセル・デュシャンへのオマージュ展』	2017/10/6-10/22	元淳風小学校	制作	京都市 / アンスティデュ・フランセ関西 (旧 関西日仏学院)
いだらぼうとホリバーン—巨人と眠り	2017/10/16-10/22	kumagusuku	山本麻紀子 (2017年5月「いだらぼうとホリバーン」活動報告会)をHAPSにて行う)	企画：山本麻紀子 / 共催：kumagusuku
ワークショップ『マレーシアにおけるセクシュアル・マイノリティの現状とアート・アクティビズム』	2017/10/27	京都市中京青少年活動センター	企画・制作	京都市 文化芸術で人が輝く社会づくりモデル事業 共催：Cafe LGBT+
シンポジウム「過去の現在の未来2 キュレーションとコンサベーション その原理と倫理」	2017/11/23	兵庫県立美術館 ミュージアムホール	広報協力	京都市立芸術大学 芸術資源研究センター、國府理「水中エンジン」再制作プロジェクト実行委員会、兵庫県立美術館
コンニチハ技術シテノ美術	2017/11/3-12/24	せんだいメディアテーク 6階ギャラリー4200	スタジオ使用 (井上亜美)	せんだいメディアテーク (公益財団法人仙台市民文化事業団)
芸術と生活をめぐるラウンドテーブル vol.1	2017/11/11	元山王小学校を中心に	企画・制作	京都市 「京都駅東南部エリアアート・トライアル2017-2018」
レクチャー『映画の中のセクシュアル・マイノリティ (レズビアンを中心に)』	2017/11/25	同志社大学 今出川校地 烏丸キャンパス志高館 SK273 教室	企画・制作	京都市 文化芸術で人が輝く社会づくりモデル事業 共催：Cafe LGBT+
石川卓磨レクチャー「非写真」について	2017/12/4	MEDIA SHOP KYOTO	広報協力	MEDIA SHOP KYOTO
芸術と生活をめぐるラウンドテーブル vol.2	2017/12/7	地域・多文化交流ネットワークセンター内 地域集会所	企画・制作	京都市 「京都駅東南部エリアアート・トライアル2017-2018」
調査報告会『アメリカ西海岸におけるセクシュアル・マイノリティのコミュニティ調査報告』	2017/12/9	京都市中京青少年活動センター-中会議室	企画・制作	京都市 文化芸術で人が輝く社会づくりモデル事業 共催：Cafe LGBT+
「ゴーストに矛と盾」	2017/12/9-12/24	ARTZONE	スタジオ使用 (守屋友樹)	京都工芸繊維大学美術工芸資料館
アートの助成金をもっと知ろう	2017/12/10	芝川ビル4F モダンテラス (大阪府中央区伏見町3-3-3)	相談ブース開設	芸術文化魅力育成プロジェクト実行委員会(構成：大阪府、大阪市)
青春画廊西陣オープン記念展「open house」	2017/12/16	青春画廊西陣	広報協力	青春画廊
トークイベント『エイズ危機の時代のアートとそのアーカイブ化—これまでの経緯と課題』	2018/1/20	京都市立芸術大学芸術資源研究センター	企画・制作	京都市 文化芸術で人が輝く社会づくりモデル事業 共催：Cafe LGBT+
『はじめまして こんにちは、今私は誰ですか?』	2018/1/27	故郷の家・京都 雲史ホール	企画・制作	京都市 「京都駅東南部エリアアート・トライアル2017-2018」
第3回ワークショップ「地域資源を発掘しよう〜つぶやき拾い〜」	2018/2/7	地域・多文化交流ネットワークセンター内 地域集会所	企画・制作	京都市 「京都駅東南部エリアアート・トライアル2017-2018」
第3回ワークショップ「地域資源を発掘しよう〜つぶやき拾い〜」	2018/2/10	地域・多文化交流ネットワークセンター内 地域集会所	企画・制作	京都市 「京都駅東南部エリアアート・トライアル2017-2018」
ワークショップ「私たちの『多様性』について」	2018/2/16	京都芸術センター 大広間	企画・制作	京都市 文化芸術で人が輝く社会づくりモデル事業 共催：Cafe LGBT+
「文化芸術で人が輝く社会づくりモデル事業」成果報告会	2018/2/16	京都芸術センター 大広間	企画・制作	京都市 文化芸術で人が輝く社会づくりモデル事業 共催：京都芸術センター
第4回ワークショップ「地域資源のつなぎ合わせ〜見える化〜」	2018/2/24	地域・多文化交流ネットワークセンター内 地域集会所	企画・制作	京都市 「京都駅東南部エリアアート・トライアル2017-2018」
真空ろまん	2018/3/7-18	kumagusuku	企画にあたり相談	「真空ろまん」展実行委員会
Biennale of Sydney	2018/3/16-6/11	Cockatoo Island	スタジオ使用 (井上亜美)	The Biennale of Sydney Ltd
オルタナティブ・アートスクール・(チラシ) フェア vol.0	2018/3/17	代官山 AIT ルーム	チラシ提供 (OUR SCHOOL)	NPO法人アーツイニシアティヴトウキョウ[AIT/エイト]
「おとと おどりの まつりごと」	2018/3/25	元山王小学校 / 南岩本公園・公園東側市有地 / ハチセ倉庫 (Theatre E9 Kyoto 予定地)	企画・制作	京都市 「京都駅東南部エリアアート・トライアル2017-2018」

トーク等への参加

タイトル	開催日	会場	主催
アトリエ劇研シンポジウム「劇場の33年と未来」	2017/4/2	アトリエ劇研	主催・制作：NPO劇研／アトリエ劇研
シンポジウム「過去の現在の未来2 キュレーションとコンサベーション その原理と倫理」	2017/11/23	兵庫県立美術館ミュージアムホール	京都市立芸術大学 芸術資源研究センター、國府理「水中エンジン」再制作プロジェクト実行委員会、兵庫県立美術館
HAPSのアーティストサポート スタジオ紹介から 制作・発表の支援まで	2018/1/10	京都市立芸術大学キャリアデザインセンター	京都市立芸術大学、東山 アーティスト・プレイメント・サービス (HAPS)
「文化芸術で人が輝く社会づくりモデル事業」成果報告会	2018/2/16	京都芸術センター大広間	京都市 文化芸術で人が輝く社会づくりモデル事業
トーク「アート・トライアルとこれから」	2018/3/25	ハチセ倉庫 (Theatre E9 Kyoto 予定地)	京都市 「京都駅東南部エリアアート・トライアル2017-2018」

広報掲載

記事タイトル	掲載日	媒体	分類	発行元
文化の現場を歩く	2017/5	月刊公明	雑誌	公明出版サービス
The Point in Front Is Not the Point in Front Is Not	2017/7/1	ART NAVI EX	web	美術出版社
ALLNIGHT HAPS 2017前期「日々のたくわえ」	2017/8/2	京都で遊ぼうART	web	京都文化推進委員会、株式会社エクザム
「狩猟」「畜産」「解体」「消費」をテーマに、4人の女性作家が京都で連続展示	2017/8/4	美術手帖web版	web	美術出版社
ユードット・ゼング x 谷中佑輔展	2017/8/5	京都新聞	新聞	京都新聞社
まなざしをさす・井上亜美	2017/8/11	毎日新聞(京都版)	新聞	毎日新聞社
食と肉、命を表現	2017/8/12	京都新聞	新聞	京都新聞社
井上亜美「まなざしをさす」	2017/8	KANSAI ART BEAT	web	公益財団法人西枝財団、NPO法人GADAGO
狩猟する美術家 井上亜美展	2017/8/23	毎日新聞夕刊	新聞	毎日新聞社
日々のたくわえ	2017/8/24	ART NAVI EX	web	美術出版社
狩猟から見る命と自然の等身大	2017/9/11	美術手帖	雑誌	美術出版社
迎英里子個展(インスタレーション)	2017/10/4	京都新聞	新聞	京都新聞社
食肉処理を無機物で「トレース」	2017/10/25	毎日新聞夕刊	新聞	毎日新聞社
世界のしくみ 装置に置き換え可視化	2017/10/28	京都新聞	新聞	京都新聞社
若手芸術家らと町歩き意見交換	2017/11/8	京都新聞	新聞	京都新聞社
札本彩子個展	2017/11/8	京都新聞	新聞	京都新聞社
卒業生が出演 ALLNIGHT HAPS 2017前期「日々のたくわえ」#4 札本彩子「last night meal」展	2017/11/10	京都精華大学インフォメーション	web	京都精華大学
身体的な接触が共通点。5組の作家たちによる「ALLNIGHT HAPS 2017」後期展示がスタート	2017/11/28	美術手帖web版	web	美術出版社
食品サンプル 異様な存在感	2017/11/28	京都新聞	新聞	京都新聞社
ALLNIGHT HAPS2017後期「接触の運用」	2017/12/6	ART NAVI EX	web	美術出版社
オールナイトHAPS「接触の運用」(映像)	2017/12/6	京都新聞	新聞	京都新聞社
ALLNIGHT HAPS2017後期「接触の運用」	2017/12/11	美術手帖ARTNAVI(冊子)	配布物	美術出版社
ALLNIGHT HAPS2018後期「接触の運用」	2018/12/15	デザイン情報サイト[JDN]	web	株式会社JDN
オールナイトHAPS「接触の運用」(平面・立体)	2018/1/8	京都新聞	新聞	京都新聞社
HAPSのアーティストサポート スタジオ紹介から 制作・発表の支援まで	2018/1/10	京都市立芸術大学キャリアデザインセンター	web	京都市立芸術大学
東山 アーティスト・プレイメント・サービス、第7期HAPSスタジオ使用者募集	2018/1/10	ART iT	web	ART iT
舞台公演「はじめまして こんにちは、今私は誰ですか？」	2018/1/11	京都新聞	新聞	京都新聞社
東九条 対話重ねた舞台	2018/1/13	京都新聞	新聞	京都新聞社
HAPSスタジオ第7期募集	2018/1/13	京都新聞	新聞	京都新聞社
【Can curatorial attitudes become form? #08】キュレータートーク 飯田志保子「オーストラリアに端を発する二つの転換期—作品をとりまく文脈の移植可能性と不可能性について」	2018/1/15	京都芸術センター	web	京都芸術センター
舞台 はじめまして こんにちは、今私は誰ですか？	2018/1/25	朝日新聞	新聞	朝日新聞社
文化芸術で人が輝くモデル事業成果報告会	2018/2/1	きょうと市民しんぶん	新聞	京都市
ALLNIGHT HAPS 2017後期「接触の運用」	2018/2/3	ARTLOGUE	web	株式会社アートログ
オールナイトHAPS「接触の運用」(映像)	2018/2/6	京都新聞	新聞	京都新聞社
LGBTプロジェクト・ワークショップ「私たちの『多様性』について」	2018/2/10	京都新聞	新聞	京都新聞社
「文化芸術で人が輝く社会づくりモデル事業」成果報告会	2018/2/13	京都新聞	新聞	京都新聞社
ALLNIGHT HAPS2017後期「接触の運用」	2018/2/15	おふたいむ	配布物	京都市交通局
アートを支える現場 -アーティスト・イン・レジデンスを中心に	2018/2/22	Artist in Residence Alliance Platform	配布物	京都芸術センター
オールナイトHAPS「接触の運用」(映像)	2018/3/6	京都新聞	新聞	京都新聞社
芸術家への制作依頼仲介 京都市 専用サイトで若手支援	2018/3/9	読売新聞	新聞	読売新聞社
芸術軸にまち発信 南区 住民ら講演や音楽催し	2018/3/26	京都新聞	新聞	京都新聞社

HAPS ウェブサイト

相談窓口

アーティストと支える人からの相談を受け付ける窓口です。誰でも気軽にアクセスできるウェブサイトが、直面している問題を解決する第一歩となります。

ART Picks

京都市内の展覧会情報を網羅的に提供。現代美術に限らず、オルタナティブな動きも含めて更新し、幅広いジャンルの展覧会・イベントを紹介しています。国内外を問わず閲覧できるように日英バイリンガル表記であることも大きな特徴です。



HAPS PRESS

芸術と社会の関係を実験的に考察していくためのウェブマガジン

HAPSの活動の前提となる条件や事柄を再考し、それをHAPSの活動に還元する役割を持っています。リサーチ、インタビュー、エッセイ、レビューなどが、アーティストや研究者、専門家、市民など様々な立場の人々によって構成されています。「アーティストとは?」、「社会にとってのアートとは?」、「アートをサポートするとは?」という命題が複数の切り口から検証され、それが公開されています。このサイトは、HAPSの活動が常に反省と対話を必要としていることの表れであり、同時に社会一般に広く「アート」をめぐる状況と問題が共有されることが目指されています。

2017年に追加したコンテンツ

【can curatorial attitudes become form?】

#07 蔵屋美香「“アーティスト”という縦軸よりも、“一見関係なさそうな作品同士のつながり”という横軸に萌えるんですけど、こういうのってどうなんですかね」
キュレーターが自身に大きな影響を与えたアーティストについて語るレクチャーシリーズ。 蔵屋美香(東京国立近代美術館企画課長)による第7回。

Exhibition Review

あらゆる人に開かれた展覧会レビュー。あなたがみた展覧会に対する文章を随時募集中。対象は京都市内で開催されたものに限り。

地域の中のHAPS

2017年度、HAPSではいくつかの地域主催のイベントやお祭りなどに、協力・参加しました。



新道自治連合会会長
HAPS 実行委員

VOICE

福永敏三さん

元新道小学校をHAPSが利用開始してから6年目になります。入居アーティストの方々が広く活躍されており、有意義な取り組みだと思います。地域行事への協力もありがたいです。来年、元新道小は創立150周年を迎えます。その記念行事を準備していますので、地域とのつながりをより深めるためにも、HAPSにも協力してほしいと考えています。

上左:ハロウィンパーティー 新道児童館にて(10月)

上右:新道区民体育祭 元新道小学校にて(10月)

下左:六原フェスタ 東山開晴館にて(11月)

下右:新道学区餅つき大会 元新道小学校にて(11月)

「市民調査」結果

属性

市民調査は本年度（2017年度）で6年目である。本年度の回答数は223件であった。回答者の基本的な属性は次の通りである。全体的な傾向は昨年とほぼ同様である。

- ※回答者のジェンダー構成は、57.7%が女性、41.9%が男性、その他0.5%であった。
- ※回答者の年齢構成はQ1のとおりである。本年度は「20歳以下」がやや多かった。各世代からバランス良く回答を頂いている。
- ※住所はアンケート実施学区内が61.8%、学区外が26.8%、市外が11.4%であった。
- ※項目により、数票の無回答があるため、合計が100%となっていない場合がある。

HAPSの認知

HAPSの認知はQ2（図版参照、以下同）のとおりである。認知は重要な指標だが2012年度で52.8%、2013年度で64.2%、2014年度で76.3%、2015年度で64.7%（注）、2016年度で74.4%、本年度は62.3%であった。注 2015年度はアンケート調査の実施会場の関係で20代以下の回答数が急増したため、経年比較が難しくなった。従ってここでは「20代以下」の回答を除いた補正値を採用する。

HAPSオフィスの認知

HAPSオフィスの認知はQ3のとおりである。2012年度で44.4%、2013年度で58.5%、2014年度で63.2%、2015年度（注）で49.4%、2016年度は61.3%、本年度は51.4%となっている。

地域におけるHAPSの必要性(新項目)

昨年度から地域におけるHAPSの必要性を問う新項目を加えている。HAPSの「認知」は単に「知っている」という状況を示すデータだが、ここではHAPSに対する「評価」が問われる。結果はQ4のとおりである。アンケートに回答した住民の7割以上が、地域にHAPSが必要であると考えていることがわかる。

文化芸術指向性(新項目)

昨年度から地域に住む方々の文化芸術に対する指向性（興味・関心）について問う新項目を加えている。結果はQ5のとおりである。アンケートに回答した住民の9割ちかくが、文化芸術に関心を持っていることがわかる。

地元で芸術家は必要か

芸術家の必要性について「非常に思う」「やや思う」を「必要性認識」としてまとめる。京都での「芸術家必要性認識」はQ6のとおりである。2013年度で93.8%、2014年度で90.4%、2015年度で91.2%、2016年度で86.3%、本年度は85.0%であった。

芸術家支援意思(新項目)

昨年度から地元にいる芸術家を支援しようと思うか否かについて問う新項目を加えている。「非常に思う」「やや思う」を「支援意思」としてまとめる。結果はQ7のとおりである。アンケートに回答した住民の8割近くが、地元にいる芸術家を支援したいと思っていることがわかる。

若者必要性(新項目)

昨年度から若手芸術家を含む、若者全体について、地域におけるその必要性を問う新項目を加えている。地域における若者の必要性について「非常に思う」「やや思う」を「必要性認識」としてまとめる。結果はQ8のとおりである。アンケートに回答した住民の9割近くが、地元で若者が必要だと考えていることがわかる。

多様性指向(新項目)

昨年度から地域に多様な人々が集まることに関して、良いことだと思うか否かについて問う新項目を加えている。「非常に思う」「やや思う」

を「多様性指向」としてまとめる。結果はQ9のとおりである。「若者必要性」が9割を超えたのとは対照的に、「地域に多様な人々が集まることは良いことである」とアンケートに回答した住民は6割にとどまった。「どちらとも言えない」との回答が3割ちかくに達しており、地域住民の戸惑いが感じられる結果となった。

観光客指向性(新項目)

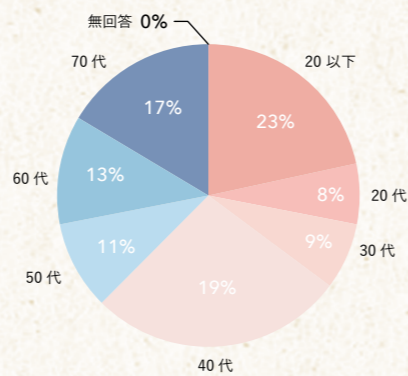
昨年度から地域に観光客が訪れることに関して、良いことだと思うか否かについて問う新項目を加えている。「非常に思う」「やや思う」を「観光客指向性」としてまとめる。結果はQ10のとおりである。多様性指向と同様の傾向がみられる。「地域に観光客が訪れることは良いことである」とアンケートに回答した住民は昨年度よりもおおきく低下し、4割台にとどまった。「どちらとも言えない」との回答が4割近くとなっており、この項目も地域住民の戸惑いが感じられる結果となった。

まとめ

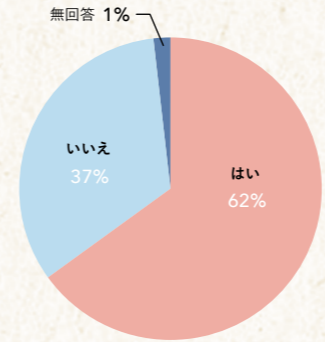
毎年データを取っているレギュラー項目に関しては、ここ数年市民データの動向に大きな変化はみられない。多くのアンケート回答者は「地域にアーティストが必要」と考えており、「HAPSの認知」も高い。これらのデータはHAPSの順調な活動ぶりを示すものであると言える。昨年度から新項目を加えたが、これらの項目には市民の「戸惑い」があらわれている。それは端的にまとめると以下のようになる。まずアンケート回答者の多くが「文化芸術が重要」だと考え、「地元にいるアーティストを支援したい」と考えている。また地域に「若手芸術家を含む若者」が「必要」だと考える人の割合も高い。しかしながら、地域に多様な人々が集まることを是とする割合は、昨年度、本年度ともにアンケート回答者の6割にとどまる。そして特筆すべきは観光客の訪問を是とする人々の割合の変化である。この項目に関しては昨年度の段階で「地域に観光客が訪れることに関して、良いことだと思う」アンケート回答者の割合はすでに6割弱と低かったが、本年度は4割程度と大きく低下した。文化芸術が重要であり、若手芸術家を支援したいと考えながらも、新たな来訪者、特に「観光客」によって起こるであろう地域社会の変化に関しては強い戸惑いが表明された。

図版

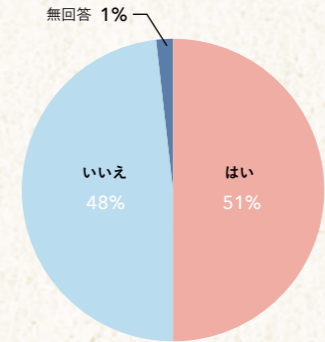
Q1. 年齢



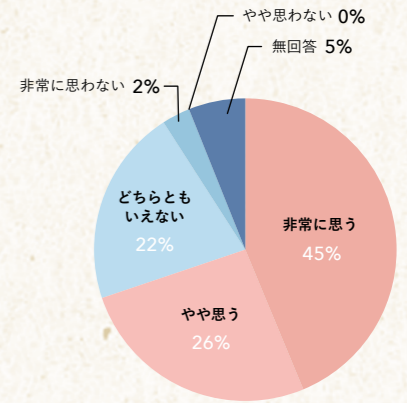
Q2. HAPSを知っていますか？
(市民のHAPS認知)



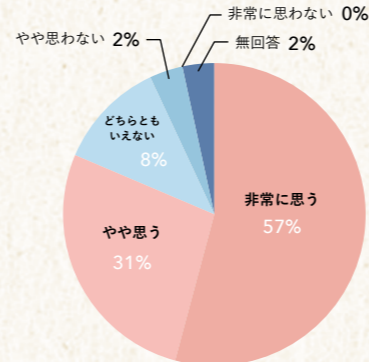
Q3. HAPSの事務所を知っていますか？
(市民のHAPSオフィス認知)



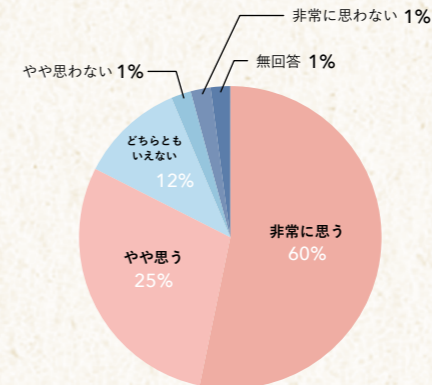
Q4. 学区にHAPSは必要だと思いますか？
(HAPSの必要性)



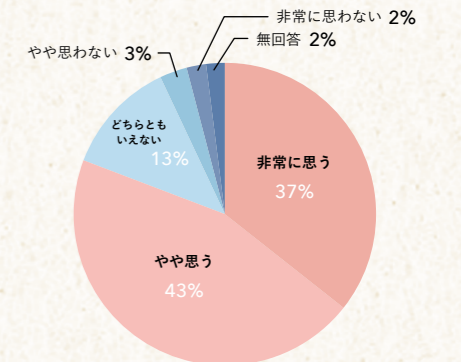
Q5. 文化や芸術（音楽・絵画・舞台・映画など）が好きですか？
(文化芸術指向性)



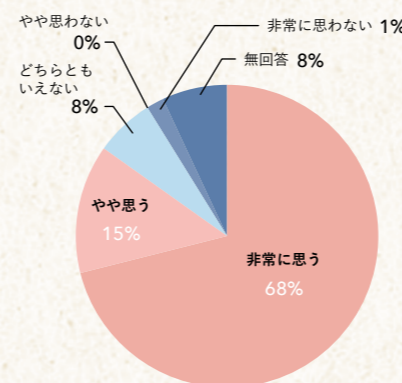
Q6. 学区に芸術家は必要だと思いますか？
(芸術家の必要性)



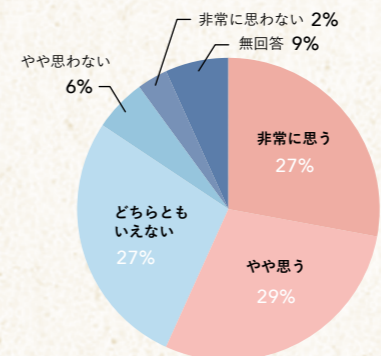
Q7. 近所に若手芸術家が移住してきたら、積極的に彼らを支援しようと思いますか？
(芸術家支援意思)



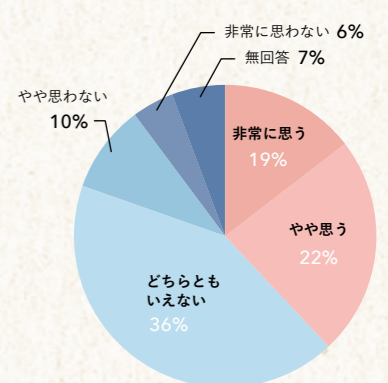
Q8. 学区にもっと若者が住んだほうがいいと思いますか？
(若者必要性)



Q9. 学区に、外国人など異なる文化をもった人々がもっと住んだほうがいいと思いますか？
(多様性指向)



Q10. 学区にもっと観光客が増えたほうがいいと思いますか？
(観光客指向性)





遠藤水城



前列左から岡永遠、嵯美智子 後列左から沢田朋、藤原藍子、芦立さやか

平成 29 年度 文化庁文化芸術創造活用プラットフォーム形成事業

京都市「若手芸術家の居住・制作・発表の場づくり」事業

HAPS 事業報告書 2017 年度

発行日 2018 年 3 月 31 日

発行元 東山 アーティスツ・プレイスメント・サービス (HAPS) 実行委員会

企画・編集 HAPS 実行委員会事務局

編集 松永大地

デザイン 坂田佐武郎、桶川真由子

写真 成田舞、前谷開、松見拓也

イラスト 中谷利明 (p12)

印刷 修美社、株式会社グラフィック

協力 阿見つばさ、あごうさとし、飯田志保子、池田剛介、井上亜美、高橋耕平、
武本彩子、中川眞、福永敏三、本間智希、前谷開、山田創平、やんツー (敬称略)

東山 アーティスツ・プレイスメント・サービス (HAPS)

〒 605-0841 京都市東山区大和太路通五条上る山崎町 339 番地

339 Yamazaki-cho, Higashiyama-ku, Kyoto 605-0841, JAPAN

TEL 075 525 7525 FAX 075 525 7522

E-MAIL info@haps-kyoto.com

http://haps-kyoto.com